

# 水田たより 7月号

令和2年7月3日

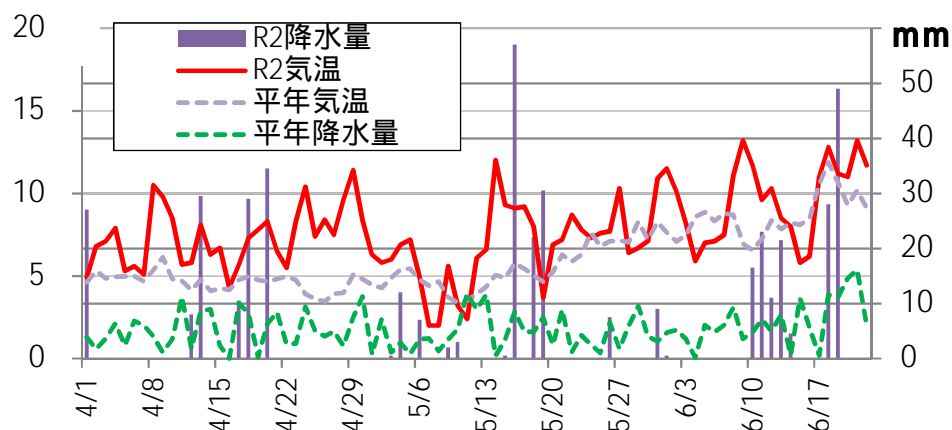
桑名地域農業改良普及センター 西山、馬場、大野、鷲野 (TEL: 0594-24-3642)

## 水稲の栽培管理

今年の夏も暑くなる予報です。高温対策を行い、品質向上を図りましょう！

### 気象概要

4月の気温は平年と比べて低く推移しましたが、5月は平年並、6月は平年より高く、期間を通しての積算気温は平年並です。6月中旬の生育基準田での調査結果では、草丈・茎数・葉齢とも、前年と同程度の生育となっています。しかし、今後、気温は高め、降水量は平年並か少ない見通しであり、高温対策を行い品質向上を図りましょう。



### 期間を通しての気象状況

(4月1日～6月22日)

積算気温	1,519
(平年比)	101%
積算降水量	444mm
(同)	100%
積算日照時間	591時間
(同)	105%

### 7～9月の天候見通し

気温	降水量
7月：高い	ほぼ平年並
8月：高い	平年並か少ない
9月：高い	ほぼ平年並
(名古屋地方気象台 6月25日発表)	

穂肥・耐暑肥を行うことで、白未熟粒の発生を防ぎましょう！

### 高温対策

品質低下の一因として白未熟粒の発生がありますが、これは出穂後の高温条件が原因となります。白未熟粒対策として、適切な穂肥・耐暑肥と 収穫直前まで通水が有効です。

### 適切な穂肥・耐暑肥

登熟期の栄養不足は、活力低下をまねき、白未熟粒の発生を助長します。全量基肥タイプの肥料を利用している場合でも、高温が見込まれ、葉色が薄い場合は、追肥(穂肥・耐暑肥)することができます。

しかし、時期がずれると、倒伏や乳白米の発生の原因となり、玄米中の蛋白質含量が多くなり食味を低下させる原因となるので、水稲の生育状況をよく観て、適期に施用しましょう。

「耐暑肥」とは夏の暑さに耐えるための追肥です。白未熟粒の発生を軽減するために、**出穂期頃に窒素成分で1kg/10a程度の追肥(耐暑肥)**が必要です。

○幼穂長と穂肥・耐暑肥時期

穂肥適期  
一般品種

穂肥適期  
コシヒカリ

耐暑肥適期

幼穂の長さ(cm)	0.0	0.1	0.2	0.5	1.0	1.5	2.5	8.0	12.5	18.0	20.0	20.5
出穂前日数(日)	30	26	24	20	18	16	14	12	10	8	4	0(出穂)

(裏面へ)

○**穂肥量**の判断方法（コシヒカリ（分施）の場合）

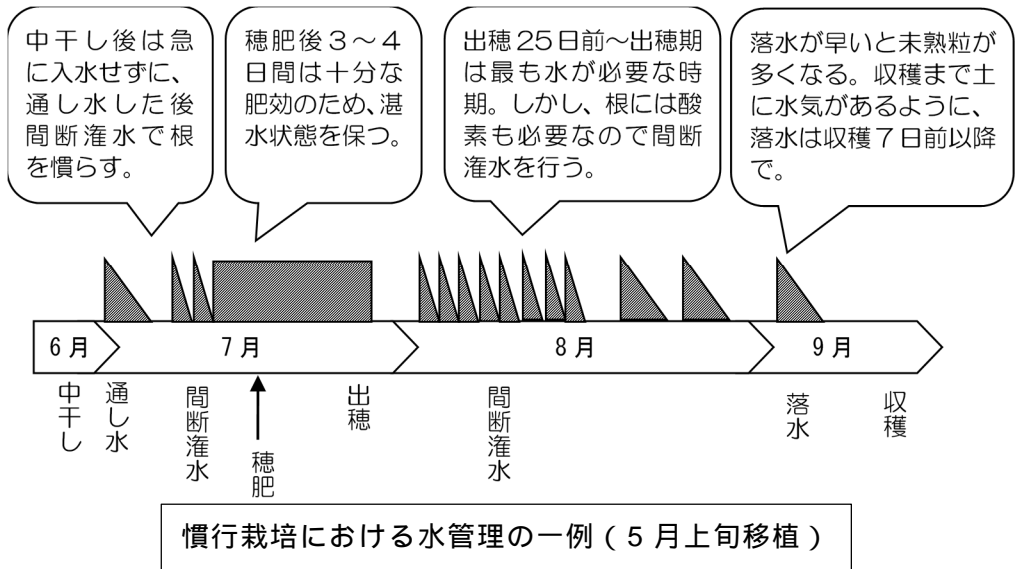
理想

生育	葉色	葉色板 見た目	3.5 薄い		4.0 やや薄い	4.0～4.5 濃い	
	草姿	すっきり	葉伸び	すっきり	葉伸び	過繁茂	
穂肥	施用量（窒素量）	2.5kg	2.0kg	2.0kg	1.5kg	1.5kg	
	施用時期	基準時	基準時	基準時	遅らせる	遅らせる	

**登熟期に天候不順が予想される場合や、葉いもち発生ほ場は少ないほうを目安とする。**

**収穫直前まで通水**

早期落水は白未熟粒だけでなく胴割米の増加にも影響します。通水は登熟を良好にしますので、収穫直前まで水気を保ちましょう。



慣行栽培における水管理の一例（5月上旬移植）

**斑点米カメムシの防除**

暖冬の影響によりカメムシはすでに多発状況です。高温少雨になると、カメムシの活動は活発化し、被害が増加することが予想されます。

**畦畔の草刈り**：カメムシの生育場所となっている畦畔雑草を刈取り、圃場付近から追い払いましょう。出穂以降に実施すると畦畔から本田へ侵入してしまうため、**出穂 10 日前までに終わらせ**、開花期には草刈りは控えましょう。

**薬剤防除**：**侵入ピークとなる出穂期～傾穂期に散布**しましょう。カメムシ多発の場合、1 回目の 7～10 日後に 2 回目の防除を実施しましょう。

○カメムシ類に有効な殺虫剤の例（令和 2 年 6 月 30 日時点） 農薬使用時はラベルを確認しましょう。

薬剤名	使用時期	使用量
スタークル粒剤	収穫 7 日前まで	3kg/10a

**雑草多発生ほ場での麦刈後の雑草対策について**

- ・雑草対策や病虫害防除の観点からも、長期の畑連作を避け、すみやかに水田に戻して田畑輪換を行いましょう。
- ・夏期に 1 か月以上、ほ場を常時湛水状態にすることでカラスムギやネズミムギの発生を抑制できます。ネズミムギの場合は、3 か月以上の湛水状態が必要です。
- ・ボトムプラウにより埋没させることで発生を抑制できます（カラスムギで 25 cm 以上）。種子が地表近くに帰らないように、播種時の耕深に注意しましょう。
- ・田畑転換・湛水処理が難しく、夏作を栽培しない場合には、麦収穫後耕起前に除草剤（プリグロックス L）を散布しましょう。
- ・ほ場への難防除雑草の侵入を防ぐため、畦畔を定期的に除草しましょう。

☞ホームページにて、過去の水田たよりや他の情報も掲載しております。[桑名普及](#)でご検索ください